



## 会長挨拶

令和元年6月1日に大学開学20周年式典が挙行され同窓会代表として出席してきました。同窓会からは記念植樹を贈呈致しました。(植樹の様子はHPからご覧いただけます。)

1期生が入学してから20年という月日が流れました。私は年に数回大学に行っておりますが、当時と比べて色々と変わっている場所があつて面白いです。建物自体が増築されたり、コンビニが出来たり、学生ホールがE-SABOになつたり。学部や学科も当時とはだいぶ違います。この20年でいろんなものが変わりました。

ただ、そんな色々と変わったキャンパス内を散策して、その場に立ってみると不思議なもので当時の色々な記憶が鮮明に蘇ります。そして変わったけど変わってないと安心にも似た懐かしい感覚を覚えます。皆さんにも是非とも足を運んでみたい、その感覚を味わって頂きたいものです。

それと「同窓会正会員による交流会実施時支援制度」を正式にリリース致しました。詳細は同窓会ホームページに載せておりますので見て頂きたいのですが、同窓生が集まりやすい環境作りを模索してみました。

是非とも旧友や恩師を聞くで交流を深めるに活用して頂けると幸いです。

2019年3月現在 正会員数 9,188名



## 学生部長挨拶

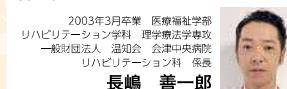
### 在学生・卒業生のキャリア形成支援について

本学園では、本学園が取組むべき課題を整理し明らかにした、中期目標・中期計画「輝ける者を育むII」を2019年4月からスタートさせております。総合改革プランとして「組織ガバナンス、財政基盤、広報・学生募集、将来構想、教育の質保証、学生支援、地域社会貢献、学修環境整備」の8つのカテゴリーを設定し、その中に19の重要課題を中期目標としてまとめてあります。これらの中間目標を達成するに取り組む重点事項を中期計画として取り上げており、86項目に上っております。

さて、私自身は学生部長として学生支援関係の中間目標を担当いたしましたが、その中身は、①学生生活安定のための支援、②課外活動の活性化の支援、③キャリア形成支援に集約されます。①の課題は、学生の健康管理や学生相談・特別支援体制の整備、奨学金等の経済的支援がテーマです②の課題は、学友会を中心とした課外活動に対する学生諸君の要望把握や、各委員会・サークル活動の支援がテーマです③の課題は、在学生のみならず卒業生のキャリアアップ支援も視野に入れており、インターンシップ制度の確立や卒業生の皆様との連携が重要テーマと考えております。特に、卒業生の皆様との連携については、本学が同窓会という組織との協力関係を強化していくことに他ならないと考えており、またそれを同窓会にも期待申し上げているところです。

本学も開学20周年を迎えました。初期の卒業生は各企業・機関において中核的存在として活躍されていると思いますが、卒業生の皆様のキャリアアップの支援も、大学として強化して参りたいと考えておりますので、ぜひ皆様のご意見やご助言をいただければ幸甚に存ります。

## 管理職となり



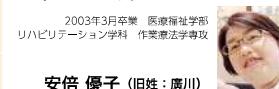
平成15年に大学を卒業し、16年が経ちました。卒業後すぐに大学の同窓生と結婚し、間もなく生まれた娘は今年高校生になりました。

私は大学を卒業後、会津中央病院に就職し、関連の老健施設、看護老人ホームの勤務を経て、3年後に理学療法部門の責任者となりました。在学中の私は良い学生は程遠く、先生方に大変お世話になりました。学生時代の私を知る方は今の私の立場を見て驚いていると思います。私は、みなさんに誇れるような経験はありませんが、「当たり前のことを当たり前にできる理学療法士」を目指して臨床に取り組んできました。

現在の仕事は、医療看護、院内会議への参加、院内のペドコトロールチームへの助言等、パソコンに向かう時間が長くなり、臨床で患者さんをみる機会が減りました。臨床ができるないことに寂しさを感じ、管理職として悩む事が多いため、リハ科として質の高いリハビリテーションを提供できるよう、職員の教育、仕事の効率化、職場環境の整備に力を入れています。当院のリハ科職員の約7割は東北文化学園大学の同窓生です。何年経っても同窓生はいるものだと感じました。後輩の皆さんもまたには大学時代を思い出し、同窓生と語らってみてはいかがでしょうか?

今後は自分自身が管理職として成長し、当院のリハビリテーション科、理学療法部門どちらに良い組織にできるよう精進していきたいと考えます。

## 16年たっても変わらないこと



安倍 優子（旧姓：廣川）

一期生として大学を卒業し16年が経ちました。私は、宮城県職員、東北文化学園大学作業療法士として勤務しています。

言語聴覚学専攻一貫生として入学し、卒業してから早16年が経過しました。

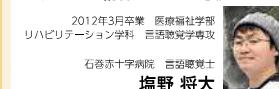
私の学生生活は、先輩がいないという環境から未知なことばかりであったため、常に同期生と結束し、目標に向かっていくといったチャレンジそのものでした。学生時代は、現在の自分のフィールドである医療の現場で非常に活かされています。

言語聴覚士として8年目、中堅職員となり、院内業務以外に石巻地域での瞧下障害についての啓発活動等、院外でも様々な仕事を任せられるようになりました。

院外の同職種とのイベントで、自分の後輩が同地域圏で活躍している姿を見ると、先輩としての責任を感じるとともに、微笑ましい気持ちになります。

臨床家として私はまだ未熟ですが、これからもチャレンジし続け、患者さんに自分の持てる限り還元出来ればと思っています。

## チャレンジ精神とチーム意識



塩野 将大

現在、私は石巻市内の病院で言語聴覚士として勤務しています。

私は、宮城県職員、東北文化学園大学作業療法士として勤務しております。具体的には、宮城県立の特別支援学校3校と公立特別支援学校の外部専門家として、先生方を支援したり、重症心身障害児・者が対象の福祉事業所で児童発達支援・放課後等ディザイナーブル・生活介護のお仕事を行っています。また、宮城県作業療法士会から委嘱を受け、「学童保育と作業療法士の連携事業」の研修会の講師や実際の学童保育への訪問等にも携わっております。日々、宮城県内を東西に移動し、自分は何者なのだろうかと思ふことがあります。

院外の同職種とのイベントで、自分の後輩が同地域圏で活躍している姿を見ると、先輩としての責任を感じるとともに、微笑ましい気持ちになります。

臨床家として私はまだ未熟ですが、これからもチャレンジし続け、患者さんに自分の持てる限り還元出来ればと思っています。



# 大学開学20周年記念特集

今回の輝人（キラリびと）は1期生にスポットを当ててみました。  
卒業して16年、様々な領域でご活躍の卒業生を紹介します。

## 初心を忘れずに

2012年3月卒業 医療福祉学部  
リハビリテーション学科 複数機能障害専攻  
看護師見習士

佐々木 侑佳（旧姓：横川）

本学の視覚機能学専攻一期生として卒業し、早4年が経ちました。学生時代はアバイスをいただける先輩がいなかったため苦勞しましたが、先生方に一人ひとりに対して手厚く親身になってサポートしていました。また、友人たちとは、のびのびと楽しい学生生活を送ることができました。

現在は県内の総合病院に勤務しております。今では患者さんにとって負担が少なく、正確な検査を行うにはどのようにしたらいいか、医師、看護師の間のやりとりは慣れていたのかと感じていますが、先輩方からアバイスをいたしました。今は脳を張ってそう言えます。しかしある時から看護師の働く場は病院だけではないのです。看護師は再検査の項目があります。月が過ぎるのは早いと感じつづつ自分のこれまでを振り返ると、失敗を繰り返しながら周囲の人達に支えられて仕事を専念してきたのだ感じます。

そして今4年、母校である本学の教員として看護師6年を迎えた。学科の先生方にお世話になり、様々なことに携わらせて頂いています。

教員になって仕事の内容・対象者はがらと変わりますが、先輩方からアバイスをいたしました。今は看護師であることに変わりはありません。ただ、私が看護師であることには変わりありません。ただし、看護師で働いていた時の経験は、私にとってかけがえのないものです。看護師の活躍の場は様々です。そのことを後輩である学生たちに伝えていけれどと思います。教員・研究者としてまだ駆け出で、先生方には迷惑をお掛けしますが、支えて下さる方々への感謝を忘れず日々精進していかたいと思います。

これからも患者さんの笑顔や感謝の言葉を励みに、眼科検査のスペシャリストとして一歩一歩成長していきたいです。

## 看護師の道

2014年3月卒業 医療福祉学部  
看護師見習士  
東北文化学園大学 医療福祉学部  
看護学科 助手

安藤 莉香（旧姓：水田）

「看護師になる=病院で勤務する」ずっとそう考えていました。もちろん本学を卒業後は総合病院に勤務しました。病院勤務はとても充実した日々でした。今でも胸を張ってそう言えます。しかしある時から看護師の働く場は病院だけではないのです。看護師は再検査の項目があります。月が過ぎるのは早い感じつづつ自分のこれまでを振り返ると、失敗を繰り返しながら周囲の人達に支えられて仕事を専念してきたのだ感じます。

現在は遠藤郡美里町というあまり大きない町の事業所で勤務し、障害児の日々の活動から休日・夜間の緊急時までの対応をしています。他にも町内特産の梅を約12,000kg栽培しており、近くのスーパーのお客さんからは次はいくつ買おうとの問い合わせがあるほどの人気商品になりました。そんな事業を支えてくれている人は数え切れず、利用者さん、ご家族、職員、地域住民、関係機関、お客様など、名前を挙げると500人なんて軽く超えてしまうと思います。

若かりし頃は意地悪だった周囲への感謝。しかし、支えられていることに気付く。感謝することができれば、成功に結び付き、やがて自分で走ってみると気付いた全く愛される施設づくり、どんな障害をもってしても安心で暮らせる町づくりを歴史から進めて参りますので、近くまでお越しの際は是非施設にお立ち寄り下さい。

## 周囲の支え

2003年3月卒業 医療福祉学部  
保健福祉学科 保健福祉専攻  
社会福祉法・社会心理学  
わ・なみの森 理事  
伊藤 公善

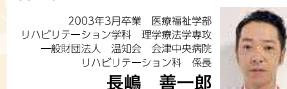
伊藤 公善

学生時代の先生から、「大学開学20周年になるから同窓会報に寄稿してもらえないか」との電話がありました。一学期ではある私は20年も経つついでどうも驚きましたが、良く考えたらシグが増えているし、腹も出でてきたし、健康診断では再検査の項目があります。月が過ぎるのは早い感じつづつ自分のこれまでを振り返ると、失敗を繰り返しながら周囲の人達に支えられて仕事を専念してきたのだ感じます。

現在は遠藤郡美里町というあまり大きない町の事業所で勤務し、障害児の日々の活動から休日・夜間の緊急時までの対応をしています。他にも町内特産の梅を約12,000kg栽培しており、近くのスーパーのお客さんからは次はいくつ買おうとの問い合わせがあるほどの人気商品になりました。そんな事業を支えてくれている人は数え切れず、利用者さん、ご家族、職員、地域住民、関係機関、お客様など、名前を挙げると500人なんて軽く超えてしまうと思います。

若かりし頃は意地悪だった周囲への感謝。しかし、支えられていることに気付く。感謝することができれば、成功に結び付き、やがて自分で走ってみると気付いた全く愛される施設づくり、どんな障害をもってしても安心で暮らせる町づくりを歴史から進めて参ります。

## 楽しむ



平成15年に大学を卒業し、16年が経ちました。卒業後すぐに大学の同窓生と結婚し、間もなく生まれた娘は今年高校生になりました。

私は大学を卒業後、会津中央病院に就職し、関連の老健施設、看護老人ホームの勤務を経て、3年後に理学療法部門の責任者となりました。在学中の私は良い学生は程遠く、先生方に大変お世話になりました。学生時代の私を知る方は今の私の立場を見て驚いていると思います。私は、みなさんに誇れるような経験はありませんが、「当たり前のことを当たり前にできる理学療法士」を目指して臨床に取り組んできました。

現在の仕事は、医療看護、院内会議への参加、院内のペドコトロールチームへの助言等、パソコンに向かう時間が長くなり、臨床で患者さんをみる機会が減りました。臨床ができるないことに寂しさを感じ、管理職として悩む事が多いため、リハ科として質の高いリハビリテーションを提供できるよう、職員の教育、仕事の効率化、職場環境の整備に力を入れています。当院のリハ科職員の約7割は東北文化学園大学の同窓生です。何年経っても同窓生はいるものだと感じました。後輩の皆さんもまたには大学時代を思い出し、同窓生と語らってみてはいかがでしょうか?

今後は自分自身が管理職として成長し、当院のリハビリテーション科、理学療法部門どちらに良い組織にできるよう精進していきたいと考えます。

## 開学20周年に寄せて

2003年3月卒業 科学技術学部  
環境計画工学科 (現:建築環境学科) 卒業  
2005年3月 大学院 健康社会システム研究科  
生活環境情報専攻 植了  
株式会社オズフアーマー 代表取締役  
大森 祥之

私は、6年前ほど前にオンラインゲームで知り合ったまーくんという年の離れた友人がいます。彼は大学生になっても毎日毎日スマートフォンをやっているので、心配になっちゃうと大学に行っているのか聞いてみたところ答えました。

「起きたら大学に行き勉強。野球・サッカーの練習後、バイトをこなして帰宅しゲーム。できることは全部楽しむ。」そして最後に「言葉遣いめまいことは「まらない」普通ならまらないことは楽しめないが人生は楽しめない。そのための努力が惜しい」ということです。その言葉に私はハッとした。当時の私は会社員で、なんとなくノルマをこなしなんなく生活する日々。それが楽しいかと言われたら…

その後、私はやりたいことをピックアップして会社法人を設立しました。経営って仕事以外にも税法等色々な勉強が必要ですし、会社員時代に比べて人は変容せず苦労が多いのですが、今、私は全てを楽しんでいます。大切なことを教えて下さるすれば親子ほど年の離れた友人に感謝しつつ「人生は楽しめない」という言葉を皆さんと共に共有であります。思いつか筆を置かせていただきました。

ちなみに、私は大学では「ナショナルミス」で優勝しました。これはこれで全力で楽しんだ結果だと思います。もちろん、眞理は少しあがくことがあります。

全ての恩師にお礼を申し上げるとともに、大学の益々の御発展をお祈り致します。

## 生かされる経験

2003年3月 科学技術学部  
環境計画工学科 (現:建築環境学科) 卒業  
2005年3月 大学院 健康社会システム研究科  
生活環境情報専攻 植了  
株式会社オズフアーマー 代表取締役  
小島 佳宏

開学20周年おめでとうございます。

20年前の学生時代に思いを馳せると、研究室での生活が色濃く思い出されます。

大学を卒業後、一度民間企業に就職したものの、情報技術の知識を広げるべく、大学院に進学し、再び藤本研究室へ戻って、延べ4年間の研究活動に取り組みました。

当時は、情報技術の変化が激しい中、2001年にApple社からiPodという製品が発売され、その操作方法などに大きな衝撃と影響を受けたのを今でも覚えています。

現在、私はハウスメーカー様へ水まわり住宅設備機器の販売する仕事をしておりますが、私の勤務先は2011年に5社が合併し設立した会社です。

統合前の会社から比べると扱う商材は10倍以上に増え、部署や仕組み、制度もこれまでとは全く異なるものとなりましたが、そんな変化にも対応でき生き残るために、勤務できているのも当時の貴重な経験を出来たからこそと考えます。

今後も様々な事にチャレンジし活躍と言える様な報告を本誌に掲載してもらいたいと思います。